



テクニカル講座—その3 上級者を目指せ！ ステップアップ編

第1回 スポーツコンディションって？

講師・佐々木智之

ささき ともゆき / 1986年7月18日生まれ、神奈川県出身 / 2003年からナショナルチーム在籍、現在プレイングコーチキャプテン / NHK杯全日本個人選抜選手権で4度の優勝のほか、国内外で個人戦及びチーム戦で優勝多数 / ヒサカプロショップ所属

近年プロ、アマ問わずトーナメントは、スポーツコンディションで行われることが多くなってきました。それとともなって、プログラムシートやテクニカルインフォメーションなどが事前に発表されるようになりました。それには大会への準備のために重要な情報がたくさん盛り込まれています。今回はまずプログラムシートの見方、読み方を解説します。

(取材協力：ボウリング王国スポーツ八景店)

プログラムシートから読み解く レーンコンディション

プログラムシートを見れば、さまざまな数値が記載されていて、オイルパターンをはじめ、レーンコンディションに関する大体のことが把握できます。ここでは抑えておきたいポイントに絞って、説明を進めていきます。

ちなみにサンプルとして右に掲載しているのは、今年5月13日から15日まで、新狭山グランドボウルで行われたNHK杯第55回全日本選抜選手権のプログラムシートです。

① オイルパターンディスタンス (長さ)

大会に出場するにあたって、ボウラーの皆さんがまず気になるのはオイルパターンだと思います。レーンのどこまでオイルが入っているかで、オイルパターンが区分されます。

33~37フィートまで入っていると

ショートオイルパターン、38~42フィートがミディアムオイルパターン、43フィート以上がロングオイルパターンと定義されています。ちなみにNHK杯は44フィートでしたから、ロングオイルパターンになります。

② ボリュームオイルトータル (量)

1レーンあたりどれくらいの量のオイルが塗られているかを示すのが、ボリュームオイルトータルです。その量によってボールの走りがある程度想像でき、大会に持って行くボールを決めるのに重要な要素になります。

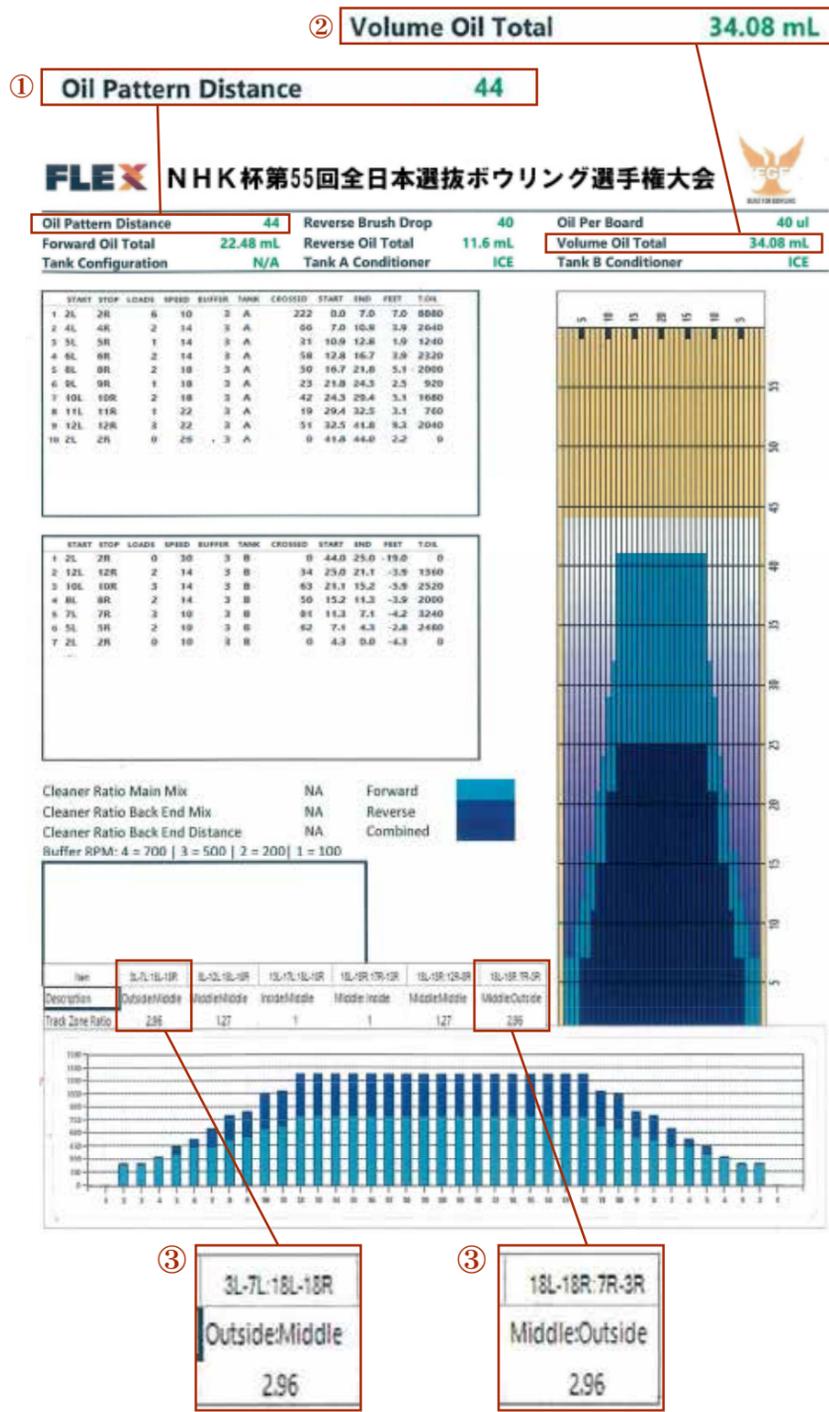
20ミリリットル以下をローボリューム、21~26ミリリットルをミディアムボリューム、26ミリリットル以上をハイボリュームと定義しています。NHK杯は、34.08ミリリットルですから、ハイボリュームでした。

③ レシオ (比率)

レシオとは、板目の3~7枚目のオイルの量と、真ん中の18~18枚目の、いちばんオイルの多いところの比率を表します。比率が大きくなればなるほど、オイルの壁を感じられるので難しくなります。逆に1:1に近づくほど、オイルの壁がなくなって難しくなります。この比率が4:1以下を、一般的にスポーツコンディションといいます。JBCでいえば、国体やNHK杯、全日本選手権などは、すべて4:1以下のオイルパターンで行われています。今年

のNHK杯は2.96:1でした。また人数の違いを考慮して、左右で比率を変えている場合もあります。

通常のボウリング場のレーンコンディションは、少し易しめに設定されていて、例えばスポーツ八景店では、10月は7:1のオイルパターンに設定されています。また近年はほとんどのボウリング場でプログラムシートが掲示(オイルパターンのみ掲示のところもあるようです)されていて、その日のレーンの大体の情報を知ることができます。



▲最近の高性能なメンテナンスマシンは、あらゆるオイルパターンを自在に作る事ができる

◀取材日(10月11日)にスポーツ八景店に掲示されていたプログラムシート

プログラムシートの情報を 試合の準備に生かす

プログラムシートの見方として、オイルの長さ、量、レシオの、少なくともこの3点をおおまか程度知識として分かっていると、そのレーンコンディションの大まかな全体像が見えてくると思います。

JBCでは、大会の2週間から1カ月前ぐらいには発表されます。これを見ながら持って行くボールのラインナップを、ロングオイルで量も多いから曲がるボールを中心にしようとか、オイル

が薄いので走るボールを中心の方がいいかなとか、組み立てを考えます。

また同じオイルパターンを作っても、会場センターのレーンの素材がウッドかプラスチック(シンセティック)か、メンテナンスマシンの機種、使用オイルの種類などによっても、ボールの動きは変わってきます。それらの情報を確認できるテクニカルインフォメーションの見方については、次号で解説します。